

---

# ルーキー

ロキ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ルーキー

### 【Zコード】

Z5219A

### 【作者名】

ロキ

### 【あらすじ】

平凡な日常に飽き始めた女子高生の波（本條波）は、たまたま入った占いの館の占師に地図が書かれた紙を渡され、そこに書かれたとおりの場所に行く事にした。占いの館を出て見るとさっきまであった占いの館がなくなっていた。辺りを見回すとさつきと風景が違うことにきずいた波。占師に言われた事務所が目の前にあつた…入つて見るとそこには茶髪で背が高くて歳は17～20歳ぐらいだろうか…大人びていて、かつて良かつた。そして、波はルピカと言つ、女の子が自分のなかにいることを知つた…第一章終わり

## プロローグ

私は何もかもが普通だった。学校の成績や容姿、考える事…皆と同じように動き、皆と同じように生活する… つまらなかつた。正直 魔法や幽霊なんて信じてない。だから、なあさらつまらなかつた。でも、ある日出会つたんだ。私の運命を変える人に…

## プロローグ（後書き）

私は何もかもが普通だった。学校の成績や容姿、考える事…皆と同じように動き、皆と同じように生活する… つまらなかつた。正直 魔法や幽霊なんて信じてない。だから、なあさらつまらなかつた。でも、あの日出会つたんだ。私の運命を変える人に…

## 第一話 町中の//ストロー（前書き）

「あーあ。つまんないなあ」と、独り言感覚で言っていた。制服を見れば女子高生だと分かつた。

「なんか、ないかなあ…」と、また独り言をいい始める。それも、歩きながら。

足が止まつた。彼女の田線の先に田をやると、そこには…「占いの館？こんなのあつたつけ？」

と、彼女はその建物をまじまじと見つめる。考えこんでしまつたと、思つたがあの（占いの館）に入つて行く。

「あの…すいませーん誰かいませんか？」占いの館は真っ暗であるでお化け屋敷みたいに通路は長かつた。その通路をまっすぐいくと、光が見えた。光と、言つてもそんなに明るくない。

「やつと、着いた！」

## 第一話 町中の//ストロー

私は何もかもが普通だった。学校の成績や容姿、考える事…暨と同じように動き、暨と同じように生活する… つまらなかつた。正直魔法や幽霊なんて信じてない。

だから、なおさらつまらなかつた。

でも、ある日出合つたんだ。私の運命を変える人に… 「あーあ。つまんないなあ」

と、独り言感覚で言つていた。制服を見れば女子高生だと分かつた。

「なんか、ないかなあ…」

と、また独り言をいい始める。それも、歩きながら。

足が止まつた。彼女の目線の先に田をやると、そこには…

「占いの館？ こんなのがつたっけ？」

と、彼女はその建物をまじまじと見つめる。考えこんでしまつた

と、思つたがあの（占いの館）に入つて行く。

「あの…すいませーん誰かいませんか？」

占いの館は真つ暗であるでお化け屋敷みたいに通路は長くかつた。その通路をまつすぐいくと、光が見えた。光と、言つてもそんなに明るくない。

「やつと、着いた！」 そこには、占師と思える女性がいた。思つてこたより、若くて黒いマントを羽尾つけていた。「どうぞ。こちらへお座りください」

占師の方からしゃべつた。 「はい…お願いします。」

占師が喋りだした。 「あなたは、毎日がつまらない…」

「えつ…じおしてそんないと…」

占師はかまわず喋る。

「もつ平凡な生活は嫌だと、思つてゐるでしょ?」

彼女はびっくりして声すらでない。また、占師は喋る。

「ここへ行きなさい。ここへ行けばつまらなことなんてなくな

るわ

と、一枚の紙を渡された。

「あなたの名前は？」

「波はなみだ。」「本條波です。」

「そう、波はちゃんって言つて、それじゃあね。波ちゃん。」  
と、山師が言つた瞬間田の前が暗くなつた。

わざりて見るとそこには山の館などなくせついた場所でもない。山師からもひつた紙を見て見ると、白夜事務所と、書かれてい  
た。

「どうなつてゐるの？さつきは地図だったのに。」

と、波は立ひぬく。考えたあげく行くことにした。あの、山の  
の鶴山の言葉を信じて…

## 第一話 口中の//ストロー（後編）

そこには、占師と想える女性がいた。思っていたより、若くて黒いマントを羽織っていた。

「どうぞ。こちらへお座りください」占師の方からしゃべった。

「はい…お願いします。」

占師が喋りだした。

「あなたは、毎日がつまらない…」

「えっ…どうしてそんなこと…」占師はかまわず喋る。

「もう平凡な生活は嫌だと、思っているでしょ？」

彼女はびっくりして声すらでない。また、占師は喋る。「…行く行きなれこ。ここへ行けばつまらなうことなんてなくなるわ」と、一枚の紙を渡された。

「あなたの名前は？」占師は聞いてきた。

「本條波です。」

「そう、波ちゃんって言つの、それじゃあね。波ちゃん。」

と、占師が言つた瞬間田の前が暗くなつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5219a/>

---

ルーキー

2010年10月15日23時39分発行